

横浜初！廃棄物処理事業者が脱炭素の国際的認定を取得

～CO2 排出量削減目標に向けた具体的な取り組みがスタート～

▶横浜市及びフィリピン国セブ州において、廃棄物の燃料化事業を展開している株式会社グーン（本社：神奈川県横浜市金沢区 代表：藤枝慎治）は、CO2 削減目標について、国際的なイニシアチブである「SBTi(Science Based Targets initiative)」より、認定(※1)を取得いたしました。

※1中小企業向け検証ルート(Target Setting Letter for SMEs)における認定



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

【CO2 排出量削減目標】

Scope1 から Scope3 までの算定を行いました。

また、Scope1 と Scope2 の GHG 排出量について、2020 年を基準年として、2030 年までに 42%削減いたします。

【削減目標達成に向けたアクション】

- Scope1: 当工場で使用される軽油等の燃料使用量を効率化し、より環境負荷の少ない燃料へと転換を進めていきます。
- Scope2: 当工場の供給電力を非化石証書付き再エネ電力もしくは、J-クレジットにてオフセットすることで、全事業所を実質再生可能エネルギー100%化いたします。
- Scope3: 各カテゴリーの排出量を測定いたしました。今後、サプライチェーンの協力を得ながら、さらに詳細な削減目標を設定、実行していきます。

サプライチェーン排出量の算定及び削減目標の策定については、カーボンフリーコンサルティング株式会社(本社：横浜市中区 代表：中西武志)の協力を得て実施いたしました。

————— 本件に関するお問い合わせ先 —————

<会社名> 株式会社グーン

<所在地> みなとオフィス：神奈川県横浜市中区山下町 2 番地 産業貿易センタービル 10F

<連絡先> TEL:045-228-8960 FAX:045-228-8961 MAIL:k_ikeda@guun.co.jp

<担当者> ブルーエコノミー研究所 池田桂太朗

【SBTi (Science Based Targets initiative)】

SBTiは、CDP、WRI、WWF、UNGCによって2015年に設立された国際的なイニシアチブで、パリ協定(※2)が求める水準と整合した温室効果ガス削減目標に対して、科学的根拠に基づいているかの検証を行い、認定を付与しています。

※2 世界の気温上昇を産業革命前より2℃を十分に下回る水準に抑え、また1.5℃に抑えることを目標とする。

【関連サイト】

■SBTi

<https://sciencebasedtargets.org/>

■環境省

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/intr_trends.html

【(株)グーンの主な取組】

- ・廃プラスチックの燃料化(石炭の代替燃料として活用)や木くずのチップ化など、再資源化に取り組んでいます。
- ・11月からは、本社工場に廃プラスチックの本格的なマテリアルリサイクル設備を導入し、プラスチック原料であるペレット、フレークを製造します。
より環境負荷の少ないリサイクル事業を推進します。
- ・フィリピン国セブ州では、家庭系や産業廃棄物の広範な廃プラスチックについて、燃料化のプラントを運営し、温室効果ガス削減に貢献しています。
- ・当社はコンサルティング部門(ブルーエコノミー研究所)を有しており、サーキュラーエコノミー、脱温暖化、海外展開などの研究、支援業務も展開しています。

————— 本件に関するお問い合わせ先 —————

<会社名> 株式会社グーン

<所在地> みなとオフィス: 神奈川県横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル10F

<連絡先> TEL:045-228-8960 FAX:045-228-8961 MAIL:k_ikeda@guun.co.jp

<担当者> ブルーエコノミー研究所 池田桂太郎